

○安部 隆委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 最後一言とお願いしたところでしたけども、そのお茶セットなんですけども、簡単な、お医者さんなどでも置いてあるような、ああいうものでも結構じゃないかと思えます。お医者さんの待合室なんかでも置いてありますよね、冷水機と同じような大きさで。あのようなものでも市民に対しては十分なおもてなしじゃないかなと思えます。ぜひそここのところの検討をよろしく願います。暑さ対策、本当に大変なところから着手していただきたいと思えます。

以上をもちまして私の総括質疑を終わらせていただきます。ありがとうございます。

### 我妻 昇委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位3番、議席番号7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 よろしく願いいたします。先ほども「ぼくらの文楽」の話がちょっと出ましたけれども、私も、きのう、1日目は参加できなかったんですが、2日目であるきのうはスタッフ、実行委員として参加させていただきました。きのうも夜中というか、夜まで手伝ってきたものですから、あちこち筋肉痛のような状態になっています。きょうも、彼らは、この雨の中、かっぱ着て撤去作業をしてるんだろうなと思うと、事故がないといいなというふうに思っております。

「ぼくらの文楽」で、いろんな都会から、あるいは県内の遠いところからも来た方と、足湯というところで、いろんな触れ合いをさせていただきました。本当に長井市はいいところだなというふうにおっしゃっていただきました。今回初めて来たと、来年も来るよという方、また

去年も、ことしも来てますと、また来ますという方、まずとにかくいいところだなというふうにおっしゃっていただく、これが本当に私も参加してよかったなど、収穫を得たところがございます。ぜひそういった長井市のファンというんでしょうか、長井市はいいところだなというふうに思ってくれて、しかも遠いところからわざわざここに来てくれる方が一人でも多くなればいいなというふうに願いながら、質問をさせていただきます。

まず、第1点目ですが、観光振興計画について伺います。

7億3,000万円をかけ、新たに花公園を建設するよりも、あやめ公園を通年型に整備すべきではないかということで、質問事項に具体的に質問を上げてしまったんで、何も脚色するところもないわけですが、30分もかからないで終わってしまうのもなんなものですから、ぜひじっくり答弁していただきたいと思えますが、いつも簡潔になどと申しておりますけれども、きょうは、なるべく議論を深めたいなというふうに思っている次第です。

あやめ公園が通年型でないということですよ。1カ月です。あれを、1カ月ありませんよね、実質来る方は。有料期間というのは、ほんの2週間がいいところでしょうか。以前はもっとあったのかもしれませんが、ここの花の時期もずれてきたということもあって。これを通年型にすればいいのになというふうな話は昔からありましたよね。あのハーブガーデンがはやるのころ、ハーブを植えたらいいんじゃないかとか、アヤメ以外にも、いろんな花があるだろうと。あるいはテーマパークなど、いろんなことがありましたので、あやめ公園にこれからは力を入れていくんだろうなというふうに私なりに将来考えていたわけです。

多分そういった議論が今後出てくるだろうなと思ったところ、この観光振興計画、素案の状

態なわけですが、7億3,000万円で駅前  
に花公園をつくるということです。その約半分  
ぐらいは土地購入代金ではないかなというふう  
に思うんですが、そこにそのようなお金をかけ  
るんだったら、今あるあやめ公園を通年型に整  
備すべきだろうと、これは素朴に思うことだと  
思います。誰もが思うんじゃないでしょうかね。  
同じお金をかけるんだったら、あやめ公園を通  
年型にして、しかもあやめ公園駅というものが  
近くにあって、駅と公園、長井駅前も駅と公園  
ですね。フラワー長井線を使って、山形鉄道が  
努力して観光客を連れてくると。その方に花公  
園に入ってもらうんだと。だから、駅前ににぎ  
わいもつくりたいということだと思うんですけ  
れども、あやめ公園駅も、あやめ公園と近くて、  
同じことが言えると。まちなかでありますので、  
より効率的にということでしょうか、今あるもの  
を生かすには、あやめ公園を整備する。これが  
最初の発想ではないかなと思うのですが、振興  
計画の中では、素案の中では長井駅前に有料の  
花公園ということだと思うので、まずその1点  
目、あやめ公園を通年型に整備するべきではな  
いか、そのほうが先ではないかと思うのですが、  
市長、いかがでしょうか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

あやめ公園の通年型というのは、将来的に目  
指さなきゃいけない方向性だと思ってます。通  
年型といいましても、結局市民の皆様に通年ご  
利用いただくということを主眼でいくのか、あ  
るいは外からいらっしゃるお客さんに通年あや  
め公園にお越しいただくということがメインな  
のか、あるいはその両方なのかということがい  
ろいろあるかと思えます。あやめ公園について  
は、歴史的なところは我妻委員は観光協会の理  
事ですし、ただいま「ぼくらの文楽」でもお話  
がありましたように、さまざまなまちづくり活  
動をなさってるんで、今さら私から申し上げる

までもないわけですが、ことしで102年目だっ  
たわけですが、もともと市民の皆様がアヤマ  
メを植えて茶屋をつくったのがきっかけとして、  
今まで大きく成長したわけですが、特に北側の  
部分、北側の駐車場から入る部分ですね、あの  
辺あたりが全く、ここ数十年整備されておしま  
せんので、あすこを中心にあやめ公園をより充  
実したものにしなきゃいけないんじゃないかと  
いうことで、現在、都市公園の長寿命化計画と  
いうものを進めているところです。

その中で、北側を中心に全部は4ヘクタール  
以上あるところですから、手をかけるには相当  
お金がかかるので、難しいかと思えます。今か  
ら十五、六年前に行った際には8億円ぐらいか  
けてでしたっけ、3分の1ぐらいしか直してな  
いわけですから、そういう意味では、可能性と  
しては、やっぱりそっちの北側でやるしかない  
のかなというふうに思ってます。

問題は、どういうふうに通年型にするかとい  
うところが難しいんだと思えます。あやめ公園  
は長井市のシンボルですから、今植栽している  
アヤマメを減らして、違う花を植えるというの  
が果たして市民はよしとするのか。今500種類100  
万本を植えてるわけですが、もうちょっと  
足りないのが、水をもう少し活用したいとか、  
いろんな人の意見がたくさんあります。後は今  
のあやめ会館が非常に昔風の建物で、今の時代  
にマッチしてない。今、外からいらっしゃる方、  
あと市民もそうなんですが、望まれるのは庭園  
型ですから、例えばつつじ公園がなぜ非常に評  
価が高いかということ、庭園型の公園だから非常  
にきれいで評価が高いわけです。しかし、あや  
めはあやめ草って言うぐらい、やっぱり3年に  
一度は植えかえしなきゃいけないという、いろ  
んな経費がかかる部分と、あと長井市の場合、  
ずっと種類と量で売ってきてますから、これを  
通年型にすると、やっぱりあやめは年中咲かせ  
るというのは、これは不可能ではないかもしれ

ませんが、相当難しいと。そうしますと、何をどういうふうにかえていくかというところが非常に難しいのかなというふうに思っています。

我妻委員がおっしゃるように、花公園というのは、実は山形鉄道と一体な部分もございまして、山形鉄道の赤字を何とか減らすために、フラワー長井線をご利用いただいて長井市にお越しただくという一つの手段です。ですから、あやめ公園駅があるわけですので、そういった意味では、我妻委員がおっしゃるのも道理なわけですが、むしろ既存のあやめ公園をいろいろ違うものにかえていくよりは、あやめ公園はあやめ公園として、よりもっと市民に親しんでいただけるような、あるいは外から来た観光客の皆さんに感激してもらえような公園として整備する。

確かに土地代はかかるんですが、やっぱりちょうどまちのど真ん中ですので、そうすることによって、あすこからフラワー長井線のお客さんであったり、あるいはかわと道の駅へいらしたお客さんがちょっと何人か、10人に1人とか2人でも足を伸ばしてもらったときに、まちなかですと、いろんな意味で経済波及効果が起こりやすいだろうということでの設定でございます。したがって、あやめ公園を通年型ということについては、決してこれは間違いではありません。都市再生整備計画の中で今回上げてますのは、かわと道の駅の部分なんですけど、花公園については、来年度あたりに同じような測量設計、それから基本計画を立てて、最終的には6年後ぐらいのオープンを目指すべきだろうと。そして、かわと道の駅は、こともしも仮に通してもらったとしても、4年後のオープンですから、非常に時間がかかるし、当然この都市再生整備計画は変更が可能でございますので、そのところはもう少し具体的にいろいろ検討すべきじゃないのかなと思っております。私としては、今の例えばこの間のあやめR e P oで

も考え方を申しあげましたように、まちなかにある花公園というのが一番経済波及効果を及ぼしやすいのではないだろうかということで設定したところなんです。以上でございます。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 あやめ公園もまちなかだと思うんですよ。遠くから来た人は、あやめ公園駅だろうが長井駅だろうが同じだと思うんです。魅力があるところに来て、目的があって来て、そこからもっとさらに中心市街地に行ってみようといったときに、一駅区間の長井駅からあやめ公園駅の距離だったら、遠くから来た人にとっては余り変わらないと思うんですよ。だから、まちなかの経済波及効果、よりまちなかにという考えは、もちろんそのとおりなんですけれども、あやめ公園駅で何ら支障はないと思うのですが、いかがでしょうか。まずちょっと後でお聞きしますが、課長にも同じようにお聞きしたいと思います。

まず、まち・住まい整備課長、土地代を7億3,000万円のうち幾らか具体的にちょっと私、頭に入ってなかったんですが、土地代を含めた7億3,000万円、長井駅前の公園に使うよりも、今あるあやめ公園を整備するほうが良いというふうに思いませんか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

都市再生整備計画のほうの計画事業として駅前広場の整備を今見ております。あやめ公園は、あくまで都市公園としての機能を有しておりますので、当然あやめ公園の今後リニューアル、長寿命化についても必要かと思いますが、まちなかの再生、にぎわいを創出する意味では、長井駅前広場というのは大切なものだと思いますので、それぞれの機能に合った整備というのは必要かなというふうに思っております。以上で

す。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 観光振興課長にも同じ質問をしますが、同じお金を使うんだったら、あやめ公園に使ったほうが効率的じゃないんですか。どっちにも今、まち・住まい整備課長は、それぞれ整備が必要ということですが、それぞれ整備するよりも1カ所に整備する、あるいは今ある施設をより優先的に整備する、このほうが先だと思いませんか。

○安部 隆委員長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 お答えいたします。

お二人がお答えした後なので答弁しにくいのですが、あやめ公園については本当に委員ご案内のとおり、もう100年を超える、あやめで、花ショウブで長井市の誇りになってる公園でございます。金銭的には委員おっしゃるとおりかもしれませんが、あやめ公園には長井古種という宝物が存在をいたします。これは日本の宝でもありますので、これは未来永劫守る義務が生じてると思います。この長井古種がなければ日本の花ショウブの改良種はあり得ないことになっていきますので、それぐらいやっぱり重要度が高いのではないかと。

あと市長もおっしゃってましたが、あやめ公園をほかの花で埋めてよろしいのかということです。3.3ヘクタールございますので、その大体1.5、半分ぐらい北側が占めておりますけども、それをどのようにあやめとあわせてやるか、非常に頭を悩ますところかなと。といいますのは、花ショウブというのは日本固有種であります。恐らくこれから考えなければならぬのは、花というものは多分外来種、宿根草であれ何であれ、宿根草というのは非常に開花期間が短い。それに一年草というのは開花期間が長いということで、それぞれの花公園で工夫しながら開花期間を長くとっているものです。そういったスタイルに日本固有種のあやめをどうやって溶け

込ませるかというのが非常にちょっと難題だなということでございます。観光振興計画では、コンセプトといたしまして、2つの入り口として最初から設定をいたしてございます。市の真ん中から南、北のほうへ誘導をかける。これがコンセプトでございます。以上でございます。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 違う花をあやめ公園に植えて、それで市民が納得するか。長井駅前に花公園をつくることに市民が納得するかと同じことですよ。長井古種が宝物というのは、それはもちろんです。何も長井古種をほかの違う花にしるなんていうことは誰も考えてないと思います。例えば砺波のチューリップ園ですと、温室の鉄骨組みのハウスを使って、雪にも耐えるハウスを使って一年中チューリップが楽しめます。例えば7億3,000万円で行けるかどうか私にはわかりませんが、例えば一年中長井古種を楽しめるんだと、見ることができるんだと、あるいは球根を買うことができるんだとか、そういったことにお金を使うということも、長井古種を宝物として未来永劫守っていくことにつながるのではないですか、平課長。

○安部 隆委員長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 お答えいたします。

委員おっしゃるとおりかと思いますが、これまで早咲きに成功させたりしたことは、北中に1回、あとももちろんさまざまな研究を全国でやっておりますが、なかなかやっぱり1年間を通して咲かせるというのは非常に難しいようです。ただ、やっぱり考え方でして、あやめ公園についてはあやめに特化をする、そして1カ月だったら1カ月、観光公園として育て上げる、そしてまた残りの10カ月ぐらいは市民公園として、きれいに整備していく、そのほうがよろしいかと存じます。以上でございます。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 市長、可能性を狭めてる

んじゃないですか、今の答弁を聞きますと。通年型にすることもできるんですよ、お金をかければ、あやめ公園だって。でも、1カ月期間で集中して、より花公園を特化してというふうに今おっしゃった。それはそれでいいんですが、私が言ってるのは、同じお金を使うんだったら、あやめ公園に使いましょうよと。いつでも球根を買えますよとか、いつでも花を見られますよ、あるいは違う花でもいいのかもしれない。あるいはテーマパークのようなことでもいいのかもしれない。（2）のほうにもつながりますけれども、そのほか周辺と一帯を整備することによって、1年間楽しむことができるようになるんじゃないでしょうか。その可能性を狭めているんじゃないですか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 可能性を狭めてるということでは私はないと思います。本来あやめというのは、やはり初夏を彩る花です。それが1年通して見られるということで、果たして人が呼べるのかというところに私は疑問があります。あやめ公園は、我々市民の宝で、先人の皆さんが苦勞して100年以上守ってきた公園です。これを大切にするのはもちろんですが、そのあやめを生かす意味でも、やっぱりない物ねだりで、あるもの探しでいこうよということはわかりますよ。でも、あやめという資源を生かすためにも、その引き立て役としてのプラスアルファというのは今求めなきゃいけないんだろうというふうに思ってます。

ですから、我妻委員がおっしゃることは、それはそれで一つの考え方です。でも、ちょっと無理があると私は思います。あやめを使った年間お客さんを呼ぶというのは難しい。ですから、そうすると、あやめ公園に違う要素を何か入れるというのは、果たして市民の皆さんが納得していただけるかどうかと。それよりも、あやめ公園とかつつじ公園を引き立たせるためにも、

そのためのプラスアルファというふうを考えるべきではないだろうかというふうに思います。

例えばこの間も、まなび館のお話がありました。まなび館は大切な我々の財産の一つです。でも、今現在生かせないんですよ。ですから、それを生かすためにプラスアルファして生かそうという発想で、実はこの花公園も一つのそういったアイデアであります。ですから、具体的にあやめ公園のところをどういうふうにするかというところをもう少し検討しないと、いろんな案があるのかもしれないし、市民の皆様から意見をいただくということも大切だと思いますが、むしろ私としては、やっぱりあやめというのは、秋にハウスの中のあやめを見ても余り観光客の人は喜ばないだろうなど。長井市という地域性、このきれいな水と美しい風土、風景というのは、それに合った花がやっぱりあるべきだろうというふうに思います。以上です。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 人を呼べるか疑問なんです。あの花公園にも、長井駅前の。同じことなんです。人を呼べるか疑問なんで、7億3,000万円もかけていいんですかというふうに聞いてるんですよ。どうせかけるんだったら、あやめ公園にかけましょうと。あやめだけと言ってるんじゃないです。それは検討すべきですよ、あやめだけがいいのか、いろんな花がいいのか。長井駅前の花公園には人が来て、あやめ公園を整備すると人が来ないって、それはどうということですか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたしますが、それは我妻委員が疑問だと思っていられるわけですが、その根拠はどういうふうにあるかわかりません。でも、私は十分人が呼べるというふうに思ってるわけですよ。ですから、それは見解の相違なんですね。やっぱりしっかりとマーケティングしましょうと。あるいはいろんな事例が

ありますので、そういったところから踏まえて、長井市ではどうなのかというところをこれからどこかで調査しなきゃいけないというふうに思っています。私は、いろんなところの事例を見て、あるいは観光振興計画の作業部会、これは市民の皆様です。女性の方が何名かいらっしゃいますけども、複数の女性がぜひこの駅前のガーデンはやるべきだと、すごいですよと、今の北海道。上野ガーデンとか風のガーデンとか、やっぱりお客さんはいらしてますよ。けども、それが長井市に通用するかどうかは、これはわかりません。疑問はありますよ。けども、ダメだというやはりことでもないんだと思うんですね。ですから、そういったところは、まだ先の計画でありますし、こういった議論を深めながら、果たして何がいいのかというところを考えるべきだと思います。

なお、これは別事業ではございますが、ぜひ角野栄子さんの記念館とか、これらについてもやはり早く実現していかないと、ほかの地域に持っていかれてしまうのかなというふうに思いますが、そういったことなども、お客様を呼ぶ要素の一つであろうとは思いますが、こういったところはまだ構想段階です。ですから、具体的にどうするかということをやはりもう少し詰めなければいけないと思っています。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 構想段階では、もう具体的に話は進んでるんで、ほかの案が5つも6つもあって、どうしようという段階でなくて、駅前の花公園というふうにならっているわけですので、もはやそれがひとり歩きもしております。いつもまだ決まってませんと、変更可能だと言うんですが、今回の調査測量だって、先ほどまち・住まい整備課長が言ったとおり、実施設計ということは変更がききません。そこにどういものが建って、どういものが整備されるのかが決まってしまうのが実施設計だと思

ております。

市長から見解の相違というふうに、私のほうから言うんじゃないで市長のほうから言われてしまったんで、見解の相違なんでしょう。もうしようがないと思いますので、(2)のほうは、隣接する市営グラウンド、球場、テニスコート、旧宮プール及び野川河川敷一帯を総合的に整備すべきではないかということで、あやめだけに特化するのではなくて、あの辺一帯を整備することによって、今ある土地をまず有効に利用する、あるいは老朽化した施設をリニューアルをする。そして、河川と一体となった整備することによって、そこを通年型の魅力的な市民にも観光客にも受ける空間にすることができるのではないかなというふうに思います。あやめ公園駅にも近いですし、どちらにも行ける。駅からグラウンドにも行けるし、公園にも行けるし、あるいは遊歩道があったり、さまざまな総合的な整備が可能と思うのですが、いかがでしょうか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

あやめ公園と幸町の総合グラウンド、これは一体として都市公園、あやめ公園の都市公園として整備されたものでございます。したがって、先ほどあやめ公園の長寿命化ということについて、ことし計画を策定中だというお話をしましたけれども、同様に野球場、それからテニスコート、あとグラウンドと、もと市民プール跡地、これらの活用について、また長寿命化について計画を今立てているところです。

あるものを有効に活用しようというのは、おっしゃるとおりで、ですから、あやめ公園と今の市民プールの跡地なんかをどうするかですけども、そういったところを都市公園の整備事業で、半額補助で整備できるということから今、計画を立てているわけです。

野球場については、もともと市民からの要望

の強いものでございます。以前にも我妻委員から、野球場こそ整備しなきゃいけないんじゃないかとか、いろんなご意見、ご提言をいただきましたけども、それらについても少しリニューアルして、ある程度社会人の公式の球場にするにはちょっと大変かもしれませんが、少年野球の公式とかソフトボールの公式試合ができる、そんな機能、あとテニスコートなども一生懸命協会のほうで整備していただいておりますが、全天候型がございませんので、そういったものを整備できるようにしたい。

あとは中央地区のスポーツ大会などで活用いただいているグラウンドについても、いろいろ課題がありますので、そういったところも駐車場がないという問題等々含めて、総合的に見直しをして、あやめ公園と総合グラウンド、市民グラウンドですね、これら一体とした整備をして、より市民の利便性を図っていきたいと思っております。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 まち・住まい整備課長、あやめ公園北側の長寿命化計画にこの市営グラウンド周辺も含まれているというふうに今、市長もおっしゃったわけですが、そのように進めてるんですか。これからどのような進め方で長寿命化計画というのを策定するのでしょうか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

今年度予算におきまして、都市公園長寿命化計画策定業務を現在行っております。まず現況調査から行っておりまして、今後30年のスケジュールで長寿命化を図るには、どういった維持管理、どういった施設にリニューアルすべきかというような計画を25年度計画を立てるために現在、調査業務を行っているところでございます。

その計画を策定することによりまして、社会资本整備総合交付金の事業を行えるということになります。以上です。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 そちらのほうは先ではないですかというふうに思うんですよ。河川緑地公園、今、調査設計業務委託料が上がってます。かわと道の駅、上がってます。そちらの調査よりも先にしたほうがいいと思いませんか。お金がもったいないと思いませんか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、長寿命化計画については、ことしからしかできません。ですから、そっちが先だということよりも、これも大切。しかし、あやめR e P oでも書かせていただいておりますが、かわと道の駅とか花公園とか、一つのプランなわけですよ。ですから、先ほど言いましたように、あやめ公園を通年化するとか、そういう考えもあるんでしょうけども、本町の街路事業でも中心市街地の活性化は動き出しておりますので、それに何とかして全体を底上げできるような、市のハード事業を行うべきじゃないかという観点から、ことしからの計画を立てたと。あわせて、消雪道路や、あるいは河川改修、道路改良、こういったところのずっと長年にわたる市民の皆様からの要望があります。特に都市計画税を払っていただいている中央地区の住民の皆様さん、あるいは成田とか、そういった方々は、ずっと固定資産税が多かったわけですよ。

しかし、何十年もそれにこたえてこれなかったと。ですから、財政再建がようやく方向性が見えてきたと、あるいは街路事業でことし3年目ですから、どんどん進む中で、いろんな目的でそういったものをつくる。河川公園については、かわと道の駅と、いわゆる舟運をつなぐと、そしてなおかつ市民の皆様のいろんな意味での憩いの場ということをつくっていかうということとで考えたところでございます。ですから、こ

っちが先だ、あっちが後だということではなくて、できるものはそのタイミング、タイミングで適時判断して行いたいというふうに思っておるところです。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 舟運文化を伝えるなり河川敷に多目的広場やゲートボール場や駐車場をつくるというのを国でやる予定だったんじゃないですか。前に平成21年度の資料でしょうか、これ最近もらった資料ですけれども。そのときは、長井市が事業主体となって整備するところ、国交省が主体となって整備するところと、非常にわかりやすく分かれていました。フットパスやら親水護岸やら舟通し水路やら堤、階段など、これは国が、国交省が整備をするんだと。市のほうでは、水の駅、この当時は水の駅と呼んでいたようですが、水の駅とか案内看板とか、そういうのを分けてたわけですよ。それを何で市が主体となって河川緑地公園を整備しなくちゃいけないんでしょうか。

私は、どうせ整備をするんだったら、今、河川グラウンドっていっぱいあるじゃないですか、あっちこっちに。ほとんどの地域にあるじゃないですか。もうこれ以上河川緑地公園やグラウンドをつくっても、ゲートボール場をつくってもしょうがないと思いませんか。それだったら、今ある河川敷や隣接する公園や市営グラウンドや一体となるところがあるわけですので、そっちが先じゃないですかというふうに思うんです。話は戻りますが、平成21年のときには、ちゃんとすみ分けをして、国が河川敷を整備するというふうになっていたわけですので、そのまま進めていただくということで悪いんですか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 多分我妻委員がごらんになっているのは、かわまちづくり事業の中身だと思います。ちょっと私、資料を見てないんでわからな

いんですが、それについては後ほどまち・住まい整備課長に時間をいただいて答弁をさせたいと思いますが、私は今まで国と我々地元の役割として考えてきたことは、国はフットパスは整備いただくと。フットパスを整備いただくところは民地ではないんですね。国で言ってるのは、あくまでも国の土地に対して、あるいは市の土地もあるかと思います。そこに対してフットパスとして整備しますよと。それから、必要な堤防の補強であったり、あとは地元から要望があったことについてはご協力しますと。

私どもとしては、水の駅ということにしたわけですが、その中でやっぱり課題だったのは、船着き場の跡地ということで、これは行政だけがやったんじゃないで、史談会とか、そういったところなどのいろんな協力で整備をしていただいたと。あと舟通し水路などもつくっていただいたと。そういった中で、あの辺一帯が残念ながら非常に民地が入り乱れてまして、なかなか目的地に行くにも大変ですし、ですから、そういった意味で、河川公園として整備して行っていきたいというふうになったものでございまして、国が最初から整備すると言った部分ではないと私は認識しております。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 では、まち・住まい整備課長にも、その辺の経緯も含めて、国が両側、今、補正予算に上がってるところの土地のことですけれども、河川敷において、国が北側、南側を買って、真ん中を残した形でいるわけですが、長井市がその土地を買って全体を整備するのではなくて、最初は河川敷は国が整備するはずだったんじゃないですか。そのまま進めればいいんじゃないでしょうか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。



国交省と長井市のすみ分けの関係でござい  
ますが、国土交通省の事業としては、あくまでも  
河川管理施設の整備に限定されます。かわまち  
づくり計画の中には、河川管理施設として整備  
するものと、そうでないものとは大きく2つに  
分かれると思います。河川管理施設には、フッ  
トパスの整備も、あれは河川管理道路としての  
整備になります。あと桜堤につきましても、堤  
防の補強工事のための事業となります。それか  
ら、舟通し水路については、河川の管理用のボ  
ートの運用として整備したわけですので、あく  
までも河川管理施設については国土交通省、そ  
うでない部分については地元長井市の整備とい  
うふうに認識しております。以上です。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 国は河川管理施設に限定  
して整備するんだと。でも、資料の言葉を引用  
しますと、国で買っていただいたところは河川  
緑地公園になるところじゃないんでしょうか。  
国は、じゃあ悪いことをしてるということにな  
りますよ。河川緑地公園というのは、例えばゲ  
ートボール場とか駐車場とかも含めて国に買っ  
ていただけてるんじゃないですか。それが国は  
管理施設に限定されるということですから、こ  
れはどういうことでしょうか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課  
長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上  
げます。

ちょっと言葉足らずで申しわけございませ  
んでしたが、整備というのは上物の整備のことで  
ございますので、今回の用地購入につきまして  
は、かわまちづくり支援制度全体の計画の上で  
の一環としての支援制度でありますので、長井  
市のほうに支援をいただいた部分でございます。  
以上でございます。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 私の理解というか、私の

考えでは、真ん中の土地も同じように支援制度  
で国に買っていただくということでなぜだめな  
んでしょうか。これは市長のほうがいいですよ  
ね。市長、お願いします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 それは全て国でやっていただ  
ければ、これにこしたことはないわけです。でも、  
国では最初からするという予定はございません  
でした。土地について、あすこの部分について  
将来的にやはり河川公園として、かわと道の駅  
一体となって整備したいということで、とうと  
うと何回も何回もお願いして購入をしていただ  
いたと。そして、これは国としても、買うこと  
については、それなりのきちっとした、それは  
もちろん必要性があるわけですが、でも、  
買わなくてもいいというところでも一方あるわ  
けですね。ですから、そこをだったら全部国で  
やってもらったらいいんじゃないですかという  
のは、それは理想ですけども、残念ながら国で  
はそういったことはできないし、予算がつか  
ないということでもありますので、今回そういう  
ふうにして市で購入させていただいて、せつかく  
国でもご協力いただいたわけですから、有効に  
国でご購入いただいた土地なども占有許可を  
いただいて、市民のために使いたい、あるいはか  
わと道の駅のために使いたいということで今  
まで来ております。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 国の用地購入による支援  
制度が最初から真ん中の部分はなかったとい  
うふうには市長は今おっしゃいましたか。最初から  
国が全部買うということではなかったとい  
うことですか。それとも当初はそうだったん  
ですか。ちょっとそこ今、聞き漏らしました  
ので。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 何度も申し上げますように、  
最初は国で買う予定はございませんでした。  
以上です。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 最初は国で買う予定がなかったところを北と南だけ買うことになったということですか、当時の流れとして。じゃあ、浅野課長、お願いします。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 今回の二つに分かれる部分の舟通し水路については当初から計画が上がってますので、ある程度の用地購入については当初から予定されてたというふうに思ってます。以上です。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 何で言うかという、前に市長が政権交代もあってというふうにおっしゃったと思うんですよ、一般質問のときだったか。政権交代などもあって、これ以上買っていただけなくなったというような趣旨だったと思うんですが、それもう一回、どういう意味なんですかね、ちょっとわからないんですよ。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 そもそも先ほど浅野課長が答弁しましたように、舟通し水路のところは、かわまちづくり事業の中に入ってたところでございましたので、そこは国で買う予定でした。一方、今回、私どもが計画してる河川緑地公園については国で全く想定してないところで、買う予定がなかったと。ぜひ長井市としては、ここを河川緑地公園としていろいろ使いたいと、これは先ほど申し上げたとおりです。

そこで、何とか協力していただきたいということをお願いして、その部分は買っていただいと。当然一気に買うほどの予算がつかせませんでしたので、引き続きお願いしたいということだったんですが、我妻委員もご承知のとおり、国交省関係の予算が政権交代で2割ぐらい削減されましたので、そういった影響で、残念ながら予算はつかなかったということを私は申し上

げただけであって、だって、政権交代になって「コンクリートから人」で公共事業の予算が減ったということは、我妻委員もご存じだと思ってたんですが、そういったことで買えなくなったということを私はお願いに行ったときに、何度もお願いしたんですが、「無理だから後は頑張ってくれ」というふうに言われたということは何回も申し上げてることだと思いますが、これでは納得いただけないんでしょうか。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 そこまで詳しく説明いただいたのは初めてだと思います。ちょっと私の理解では、そこまでの話は聞いたことはありませんでした。政権交代になったとしても、もう一回お願いするべきじゃないでしょうか、まだまだ。そこまで待たらないんじゃないですか。今性急に、結局今回、実施設計してしまえば買うしかないですよ、あの4,150万円で。それをどうにか回避できませんか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたしますが、確かにじゃあ買ってもらうまで待って、それから事業をするというやり方もありますよ。でも、今回の事業というのは、全体像を示しながら、ここからやっていきたいということを申し上げてるわけですね。それなりの根拠もあるわけですよ。例えば、かわと道の駅の中に市民直売所を移したいと、これは希望型ですよ。その際に、じゃあ、まず政権のほうにずっとお願いして、買ってもらうまで待ってからやるというようなことにはいかないじゃないですか。これは5年間の事業の中で計画を出して、そして認定をいただいているわけですから、それは我妻委員がおっしゃるやり方が理想ですよ。でも、さらにことしは1割近く削られてるってご存じないですか。多分ご存じだと思うんですが、自民党の長井支部の幹事長をなさってるんで、ご存じだと思うんですが、全体で3年前から比べれば3割削ら

れてるんですよ。

こんなことを余りこういう場で申し上げることではないかもしれませんが、国交省の予算のうち、総体で5割以上は維持管理費で消えていくと。残り5割が工事費ですよ。3年前から比べれば、その5割の中のいわゆる60%が削られてるわけですから、工事の予算がどんどん削られてるわけですから、それを買ってもらうまで待たらいいんじゃないかというのは、ちょっと私としては一生懸命こういうふうに申し上げてるのに対して、おっしゃっていることがよく理解できません。それは一番いいですよ。しかし、事業を進めるときに、買ってもらうまで待ってやるべきだということでは、いつになるかわからないですよ。ぜひご理解をいただきたいと思います。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 国にお金がなくて、どんどん削減されるのは私も知ってますよ。だから、長井市も、なるべくお金を使わずに済む方法はないのかということで私、提案してるんです。今の話は細かい話です。こんな細かい話はしたくありませんが、実施設計ですので、そっちの方向で進んでるので、どうしても行かざるを得なくて、この話になりましたけれども、本来したい話は、今ある土地を有効に利用すべきだと、新しい土地を買うべきでないんじゃないかと。国ですら、今なるべく借金体制から、借金地獄から抜け出そうと頑張ってるじゃないですかと。長井市が抜け出したわけじゃありませんよ。国の借金のおかげで長井市が裕福になってるようなイメージですよ、はっきり言って。だからこそ新しい土地を買って、今後未来永劫、孫末代まで管理を任せるようなことでなくて、今ある土地を有効に、あるいはこれから空き地あるいは廃墟になるであろうところをどう利活用するかという議論をするべきであるのではないかと。ということが私の趣旨でありまして、今みたいな

細かい話は本当はしたくありません。

(3)で長井ダム工事事務所跡地、タスパークホテル、ヨークベニマル、これはタウンセンターなわけですけれども、今あいてるのは長井ダム工事事務所跡ですよ。タスパークホテルというのは、結局今はタスパークホテルとして、あるいは商工会議所が運営してるわけですけれども、これだって、いつかはきっと運営し切れなくなって、長井市で責任を負うしかない。土地も買ったわけです。ヨークベニマルだって、館町南にもう移転が決まって、いつ工事が始まるのかわかりませんが、撤退は免れない。そしたら、中心市街地活性化、街路事業あわせて具体的に、もしもそうなったらどうするんだと、市としてどうするんだという議論をすべきときに、新しい土地を買って、新しい建物を建てて、雇用を生むんだということじゃなくて、同じお金を使うんだったら、もっと有効に、将来に負担がないように、私、何もするなど言ってるわけじゃありません。市長は、あちこちの話の中で、何もするなど言われるというふうにおっしゃってるようですよけれども、何もするなどは1回も言ったことはありません。いっぱいしてほしいですよ。ただ、どうせやるんだしたら有効に使いましょうという趣旨ですので、ご理解いただきたいと。ですので、長井ダム工事事務所跡地やタスパークホテルやタウンセンターなどを生かすような計画を先に作成してはいかがでしょうか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻委員がおっしゃってるのは、先ほどから私が申し上げるように、ある資源を、ある資産を有効に生かすべきだと。そのとおりです。ですけども、直球と、あと変化球と、いろいろあるんじゃないでしょうかということをおっしゃってらっしゃいますよ。ですから、例えば長井ダム工事事務所の跡地、形態はご存じですよ。

入り口の、全体があすこ約2,000坪です。そのうちの900坪が、奥の堤防沿いが長井市の土地なわけです。手前側の道路沿いの1,100坪は民地、今は全然当たってないですけど、譲っていただくようお願いしたんですけども、複数の地権者とかで、なかなかご了解いただけなかったと。そこをどういうふうに900坪を生かすかということは、いろんなやり方がございます。

例えばそれこそ宅造でやるとか、あるいはちょっと道路につなぐには相当苦労はするわけですけども、どこかの駐車場として、特に社会福祉協議会とか老人福祉センターの駐車場がなくて困ってますので、あそこを駐車場にするとか、いろいろやり方はあると思います。でも、ストレートにすぐ使えるものがないんですよ。何か工夫しないと使えないと。その工夫は惜しまないということで、私は、長井ダムの工事事務所跡はそういうふうに乗ってます。

それから、タスパークホテル、これご存じのとおり、我妻委員がおっしゃるのもごもっともです。でも、タスパークホテルは商工会議所が経営なさって、頑張ってるわけじゃないですか。ですから、この間もコンベンションビューローというお話があったじゃないですか。私は、むしろ商工会議所となって、どういうふうにしてタスを活性化するというところを本格的にやるべきだと思うんですね。残念ながらあの建物が建って25年ですけども、ここ20年ぐらい本格的にタスを活用した、いろんな誘致活動、会議とか、あるいはさまざまな集会をあそこでやらせようというふうにやったのは、私の知っている範囲では、目黒市長のときに県と一緒に何年かやりました。そこだけです。あとは具体的にあのタスを活性化して多くの人に利用してもらおうと、特に市外からですよ。そういうことはあんまりなさってないと思います。そういったところは余地があるんだろうと。しかし、あれはどうしようもないから、じゃあ改造する

というのは、もう相当金がかかります。私は素人ですけど、素人でも、例えばいろんな、道の駅にするって言ったら、5億円、10億円の話じゃ済まないですよ。いや、あのまんま内部だけ変えるんだったら、そりゃ大して変わらないかもしれないです。でも本当にフリーのお客さんが入っていただけるような施設というのは、あそこはホテルですから、シティホテルですよ。ちょっとコンセプトが違いますから、それは正直言って無理な話だと思います。

あともう一つ、ヨークベニマル。これは5年以内に撤退とかおっしゃってますけども、ヨークベニマルは、第2ヨークベニマルだっただけじゃないですか。それが本町のヨークベニマルが撤退するなんていうのをおっしゃること自体、私は理解に苦しみます。ヨークベニマルの長井支店では、5年間の延長の契約を締結していただいたばかりじゃないですか。私どもとしては、本町の皆さんあるいは長井市の求めに応じてヨークベニマルも本町で頑張ると、こうおっしゃってるわけで、なおかつあの建物は民間のものでありまして、私ども、あそこがあたりをぜひ使いたいということは申し上げておりました、非公式に。でも今そういう現状でないのに、あるものを生かすべきだと、こんな失礼な話ないですよ。

ですから、私は別に新しいものをどんどんつくって、今あるものを使わないなんて全然言っていない。むしろ今あるものを生かすために新しいものをつくるのが有効な場合もあるんじゃないですかということをおっしゃるだけで、ですからそこは我妻委員がおっしゃってることは否定してませんが、じゃあ、具体的にどうすればできますかと。政策の提言はいいですけど、それを実現するには相当たかかないといけない。その部分、先ほどのあやめ公園もそうですが、あやめ公園の周年化って、言うのは簡単ですよ。じゃあ、どういうふうにしてするんですか、そ

れで本当にお客さん呼べるんですか、本当に市民が喜ぶんですか。あやめって、やっぱり6月、7月の花じゃないですか、そういったところだと私は思っています。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 私は、スタッフが300人もおりませんので、考えられません。いろんな可能性を考えるのが市役所じゃないですか、市長じゃないですか。いろんな政策を打ち出して、あるいは市民の皆さんに意見を聞くのが市役所の仕事じゃないですか。それをどうやったらできるんですかと私に聞くのはおかしいんじゃないですか。

そんなことはどうだっていいんですが、とにかく新しい事業をするなどは言ってないですよ。もうしてほしいですよ、活性化をしてほしいです、いっぱいお金使ってほしいんです。どうせ使うんなら、もっと有効に使いましょうということを言ってるんです。

場所がここじゃなくて変更きくんだといっても、結局あの場所なんですよ、もう実施設計なんですから。花公園だって長井駅前なんですよ。そこじゃなくても、魅力的な施設だったら遠くたって不便なところだって行くじゃないですか、「ぼくらの文楽」だってそうです。フラワー長井線だって、こんな不便なところに来るんですから、魅力があれば、おもしろければ。だから今ある土地を有効に利用して、少し遠かったり、中心部から少し離れたぐらいでは全然影響ないでしょうと、もう一回根本的に観光振興計画あるいは都市再生整備計画を見直してはいかがですかと。

私は9月議会に提案されるとはとても思ってませんでした。12月だろうと。9月を含めていろんな議論をして、あるいは全員協議会や、いろんな協議会で議論をして提案されるんだろうなと思っていましたが、9月に提案されましたので、もう判断するしかありませんので、先

ほど言ったとおりに見解の相違でありますから私はどうなるかわかりませんが、もう一回、観光振興計画の基本、都市再生整備計画の基本を練り直すべきではないですか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私は、観光振興計画につきましては、今、策定中であります。したがって、10月2日にも市民の委員の皆さん、作業部会の皆さんと、あと専門員の方が5人いらっしゃいますから、その方たちとの、あと3回ありますから、その中でのやっぱり結論であろうと。

見直すつもりはないかということですが、かわと道の駅あるいは花公園、それは単なるハードですよ。観光振興計画というのは、実はその後のソフトが一番重要で、我妻委員もおっしゃってるとおりですよ、食べ物ですとか名物、お土産とか。あと、確かにいいイベントをすれば人は来るかもしれません。でも、フリーのお客さん来ないですよ。

イベントというのは、続けることによっていろんな意義があって、それは今の長井市の観光協会があんなぐらいイベントをなさるから、お祭りするからあれだけの人がまだ来てくださるんですよ。ですからそれは否定しません。でも都市再生整備計画については、もう既に認定をいただいたわけですから、ぜひ認めていただいて、中に入りたいと。中に入ってからやっぱり議論を、もう少し具体的な今度は予算もつけてもらえば具体的な計画をお示しすることができる。その中で、いろいろ議員はじめ市民の皆様から意見を聞くことができる。

しかし、今、入り口で入れないわけですよ、計画そのものを出せないわけですよ。300名のスタッフがいるというふうに委員はおっしゃいましたが、それぞれ部署、部署であるんですよ。300名全員がアイデアを出すことはできません。しかし、アイデアを実現するには相当なやっぱりプロセスあるいは専門的なマーケティ

ングとか、そういったことをしないと政策としては実現できないわけです。

ですから我々、単独の政策でやってるものというのは数少ないですよ。ほとんどは国、県の事業にのって、そして市民の皆さんがやりたいことのお手伝いをしてるというのが正直なところですよ。あとは、公共事業というのは、道路とか、そういったものですよね。あと、一々検討する必要がない、ただ、お金の検討だけが必要な文化会館であったり、あるいは庁舎だったり、そういうことだと私は思っていますんで、都市再生整備計画については、まずは入らないことには、今見直しするかどうかの問題以前の話です。以上です。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 時間になりましたので、先ほどヨークベニマルのことですが、5年間の契約を結んだというふうにわかりましたので、私の考えから外します。その情報を知り得ませんでしたので、わかりました。

まず、観光振興計画にしろ都市再生整備計画にしろ、市民も、そして観光客も長井市が魅力あるところだな、住んでいいな、訪れていいなと思えるような長井市になることを願うばかりであります。

これで質問を終わります。

### 佐々木謙二委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位4番、議席番号10番、佐々木謙二委員。

○10番 佐々木謙二委員 通告してるのは、都市再生整備事業についてということで、現在この議会に予算計上されている部分について、具体的に質問をさせていただきたいなというふうに思います。

最初に、観光交流センターについてというふうなことで、拠点施設について伺いたいと思いますが、平成24年の3月に都市再生整備事業の認定を受けたと、こういうことですね。

(「4月です」の声あり)

○10番 佐々木謙二委員 4月ですか。そして今回の補正予算で業務委託料として5,100万円ほどの予算を計上されたということになってるわけですが、この予算の意味するところで、何をするための業務委託かというようなことで最初スタートしようかなと思ったんですが、先ほど江口委員の質問に対して、現況測量、用地測量、そして基本設計、実施設計までというふうに答弁がありました。ということは、この設計は、それぞれの計画はマークさんの跡地周辺を対象として調査をすると、こういうことになりますか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 佐々木委員のお話のとおり、約1ヘクタールの部分の現況測量と用地調査測量になります。以上です。

○安部 隆委員長 10番、佐々木謙二委員。

○10番 佐々木謙二委員 じゃあ、もう少しわかりやすく具体的に、どういう順序でその作業が進められるのか、そこを教えてください。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

現在、補正予算に計上しております予算がご承認いただければ、まずは現況測量のほうの発注業務が最初になるかと思います。その間に整備検討委員会を設置するために調整を行いまして、検討を行いながら、その後は基本設計のほうに入りまして、皆さんの意見、要望などを伺いながら基本設計を定めた上で、最後に実施設計を策定するというような順序になるかと思